

B.2 モニタリング実績

(1) 活動量（燃料消費量、生成熱量、生産量等）

モニタリング項目			モニタリング方法			モニタリング実績		備考
記号	定義	単位	分類※1	概要	頻度	実績値	計測対象期間 (年月日～年月日)	
P _{PJ}	プロジェクト実施後の乾燥設備における乾燥重量	t	B	生産記録をもとに算定。	月	12,579.3	都市ガス直火焚き乾燥設備へ変更後の実績値（2017年4月1日～2020年7月31日）	
F _{PJ, fuel}	プロジェクト実施後の乾燥設備における燃料使用量	千Nm3	A	燃料供給会社である日本ガスからの請求書をもとに算定。15℃、0.98kPaの体積流量を0℃、101.325kPa（1気圧）のノルマル換算する。	月	65.353	都市ガス直火焚き乾燥設備へ変更後の実績値（2017年4月1日～2017年12月31日）	
			C	ガスメーターの実測値をもとに算定。ガスメーター表示値は、0℃、101.325kPa（1気圧）換算の体積流量。流量計に含まれる誤差±6%を考慮し、保守的な値になるよう補正し使用。	日	87.526	都市ガス直火焚き乾燥設備へ変更後の実績値（2018年1月1日～2020年7月31日）	2018年1月より別ラインの対象外の都市ガス使用量を含むようになったため、対象施設（2号ライン）個別のガスメーターの実測値をもとに算定。
P _{before}	プロジェクト実施前の乾燥設備における乾燥重量	t	B	生産記録をもとに算定。	月	4,984.1	2015年度1年間の実績（2015年4月1日～2016年3月31日）	
F _{before, fuel}	プロジェクト実施前の乾燥設備における燃料使用量	kL	C	2015年度1年間のデータについて、熱媒ボイラーに設置した油量計の値をもとに生産量で按分して算定。さらに油量計に含まれる誤差±0.5%を考慮し、保守的になるよう係数（0.995）を乗じる。	プロジェクト開始時	109.5	2015年度1年間の実績（2015年4月1日～2016年3月31日）に対して、油量計に含まれる誤差±0.5%を考慮し、保守的にみて0.995を乗じた。	

※1 プロジェクト計画書に記載した分類（分類A・B・Cのいずれか）とすること。

(2) 係数（単位発熱量、排出係数、エネルギー消費効率、物性値等）

モニタリング項目			モニタリング方法			モニタリング実績		備考
記号	定義	単位	分類※1	概要	頻度	実績値	計測対象期間 (又は計測時期)	
HV _{before, fuel}	プロジェクト実施前の乾燥設備で使用する燃料の単位発熱量	GJ/kL	Ⅲ	A重油のデフォルト値を使用する。	モニタリング報告時	38.9	「J-クレジット制度モニタリング・算定規定Ver. 3.8」に記す2017、2018年度単位発熱量。	高位発熱量基準
HV _{PJ, fuel}	プロジェクト実施後の乾燥設備で使用する燃料の単位発熱量	GJ/千Nm3	Ⅱ	都市ガス供給会社（日本ガス）の提供値を使用する。	— (供給会社変更時)	46.04655	都市ガス供給会社（日本ガス）の提供値	高位発熱量基準
CEF _{BL, fuel}	プロジェクト実施前の乾燥設備で使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	Ⅲ	A重油のデフォルト値を使用する。	モニタリング報告時	0.0708	「J-クレジット制度モニタリング・算定規定Ver. 3.8」に記す2017、2018年度排出係数。	
CEF _{PJ, fuel}	プロジェクト実施後の乾燥設備で使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	Ⅱ	都市ガス供給会社（日本ガス）の提供値を使用する。	— (供給会社変更時)	0.0513	都市ガス供給会社（日本ガス）の提供値	

※1 プロジェクト計画書に記載した分類（分類Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのいずれか）とすること。

B.3 排出削減量の算定方法

B.3.1 排出削減量の評価

(1) 算定の対象とした排出活動に基づく排出削減量の算定

注) 主要排出活動及び、付随的な排出活動のうちプロジェクト計画書において「排出量を算定する」とした活動のモニタリング結果に基づき排出削減量を算定すること。

$$ER = EM_{BL} - EM_{PJ} \quad (\text{式1})$$

記号	定義	単位	算定値
ER	算定の対象とした排出活動に基づく排出削減量	tCO2	399.7
EM_{BL}	ベースライン排出量 ※1	tCO2	760.8
EM_{PJ}	プロジェクト実施後排出量 ※2	tCO2	361.1

※1 B.3.2のベースライン排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※2 B.3.4のプロジェクト実施後排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※3 B.3.4まで入力後、自動計算されます。

(2) 付随的な排出活動に基づく排出量の影響度による評価

注) プロジェクト計画書において「排出量を算定する。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する」と選択したプロジェクト実施後の付随的な排出活動の排出量の評価を行うこと。(1)で算定した排出削減量に対して計画書で定めた影響度を乗じて算定を行うこと。

排出活動	影響度 (%) ※1	排出量 (tCO2)
該当なし		

※1 プロジェクト計画書で評価した影響度を記載すること。

(3) 排出削減量の評価

注) (1)で算定した排出削減量から(2)で評価した排出量を差し引くことにより、排出削減量を算定すること。

記号	定義	単位	算定値
ER	排出削減量	tCO2	399.7
	(1)で算定した排出削減量	tCO2	399.7
	(2)で評価した排出量(※1)	tCO2	0.0

※1 (2)で評価した排出量の総和を記載すること。行を追加して記載した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

B.3.2 プロジェクト実施後排出量

注) 主要排出活動及び、付随的な排出活動のうちプロジェクト計画書において「排出量を算定する」とした排出活動について、プロジェクト計画書で策定した考え方及び算定方法に基づき計算を行うこと。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び本報告において認証を申請する期間の実績値を表中に記載すること。

(1) 主要排出活動

(考え方) ※1 本プロジェクトでは、プロジェクト実施後の燃料使用量からプロジェクト実施後排出量を評価する。

$$EM_{PJ} = F_{PJ, fuel} \times HV_{PJ, fuel} \times CEF_{PJ, fuel} \quad (\text{式2})$$

記号	定義	単位	実績値
EM_{PJ}	プロジェクト実施後排出量	tCO2	361.1
$F_{PJ, fuel}$	プロジェクト実施後の乾燥設備における燃料使用量	千Nm3	152.879
$HV_{PJ, fuel}$	プロジェクト実施後の乾燥設備で使用する燃料の単位発熱量	GJ/千Nm3	46.04655
$CEF_{PJ, fuel}$	プロジェクト実施後の乾燥設備で使用する燃料の単位発熱量当たりの二酸化炭素排出係数	tCO2/GJ	0.0513

※1 主要排出量の算定の考え方について記載例を参考に記入すること。

(2) 付随的な排出活動

本事業で適用する方法論では、プロジェクト実施後の付随的な排出活動は規定されていないため、付随的な排出活動は評価しない。

B.3.3 ベースライン排出量の考え方

注) プロジェクト計画書で策定した考え方及び算定方法に基づき計算を行うこと。
また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、評価に用いるパラメータの説明及び報告対象期間の実績値を表中に記載すること。

(1) ベースライン排出量の考え方

本方法論におけるベースライン排出量は、プロジェクト実施後の乾燥重量を、プロジェクト実施後の乾燥設備ではなく、ベースラインの乾燥設備で乾燥させる場合に想定される二酸化炭素排出量とする。

(2) ベースライン活動量（発電電力量、蒸気の供給量又は製品の生産量等）の算定式

$$P_{BL} = P_{PJ} \quad (\text{式3})$$

記号	定義	単位	実績値
P_{BL}	ベースラインの乾燥設備における乾燥重量	t	12,579.3
P_{PJ}	プロジェクト実施後の乾燥設備における乾燥重量	t	12,579.3

B.3.4 ベースライン排出量

注) プロジェクト計画書で策定した考え方及び算定方法に基づき計算を行うこと。
また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、評価に用いるパラメータの説明及び報告対象期間の実績値を表中に記載すること。

(1) 主要排出活動

$$EM_{BL} = P_{BL} \times BU_{BL,fuel} \times CEF_{BL,fuel} \quad (\text{式 4})$$

$$BU_{BL,fuel} = \frac{F_{before,fuel} \times HV_{BL,fuel}}{P_{before}} \quad (\text{式 5})$$

記号	定義	単位	実績値
$EM_{BL,M}$	ベースライン排出量	tCO2	760.8
P_{BL}	ベースラインの乾燥設備における乾燥重量	t	12,579.3
$BU_{BL,fuel}$	ベースラインの乾燥設備のエネルギー使用原単位	GJ/t	0.854
$CEF_{BL,fuel}$	ベースラインの乾燥設備で使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	0.0708
$F_{before,fuel}$	プロジェクト実施前の乾燥設備による燃料使用量	kL	109.5
$HV_{BL,fuel}$	ベースラインの乾燥設備で使用する燃料の単位発熱量	GJ/kL	38.9
P_{before}	プロジェクト実施前の乾燥設備における乾燥重量	t	4,984.1

(2) 付随的な排出活動

本事業で適用する方法論では、ベースラインの付随的な排出活動は規定されていないため、付随的な排出活動は評価しない。

B.4 省エネルギー量の算定

燃料種別 (※1)	認証を申請する期間 (2017年4月1日～ 2020年7月31日)							
	エネルギー使用量			熱量換算 (GJ)※2		原油換算 (Kl)※2		
	単位	ベースライン	プロジェクト実施後	ベースライン	プロジェクト実施後	ベースライン (①)	プロジェクト実施後 (②)	ベースライン - プロジェクト実施後 (① - ②)
A重油	k l	276.2		10,801.0		278.7		278.7
LPG	t							0.0
天然ガス	千Nm ³							0.0
LNG	t							0.0
都市ガス	千Nm ³		152.879		7,039.6		181.6	▲ 181.6
購入電力	kWh							0.0
							合計	97.0

省エネ法施行規則4条による熱量原油換算係数： 0.0258 kL/GJ

省エネ法に基づく換算係数 (A重油)： 39.1 GJ/kL

省エネ法に基づく換算係数 (都市ガス)： 46.04655 GJ/千Nm³ ※都市ガス供給会社 (日本ガス) の提供値

※1表に記載の燃料以外を用いる場合には、行を追加して記載すること。

※2熱量換算及び原油換算において用いる換算係数については、エネルギー使用の合理化に関する法律 (省エネ法) 施行規則第4条に規定する換算係数を使用すること。

B.5 再生可能エネルギー量の算定 (該当する項目のみ記入)

(1) 再生可能エネルギー由来の発電量

認証を申請する期間 (年 月 日 ~ 年 月 日)			
ベースライン	プロジェクト実施後		再生可能エネルギー由来の発電量 ③ × (1 - ②/①)
①排出量	②付随排出量	③発電量 (自家消費分のみ)	
[t-CO2]	[t-CO2]	[kWh]	[MWh]

(2) 再生可能エネルギー熱の利用量

認証を申請する期間 (年 月 日 ~ 年 月 日)			
ベースライン	プロジェクト実施後		再生可能エネルギー熱の利用量 ③ × (1 - ②/①)
①排出量	②付随排出量	③生成熱量	
[t-CO2]	[t-CO2]	[GJ]	[GJ]